

# PCT

# 特許協力条約に基づいて公開された国際出願



(51) 国際特許分類6 G06F 3/00, G01C 21/00

(11) 国際公開番号 A1 WO00/04438

(43) 国際公開日

2000年1月27日(27.01.00)

(21) 国際出願番号

PCT/JP99/03589

(22) 国際出願日

1999年7月2日(02.07.99)

(30) 優先権データ

特顏平10/200237

1998年7月15日(15.07.98)

(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について)

富士通株式会社(FUJITSU LIMITED)[JP/JP]

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 Kanagawa, (JP)

富士通テン株式会社(FUJITSU TEN LIMITED)[JP/JP] 〒652-8510 兵庫県神戸市兵庫区御所通1丁目2番28号

Hyogo, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

高山訓治(TAKAYAMA, Kuniharu)[JP/JP]

内藤宏久(NAITO, Hirohisa)[JP/JP]

関口 実(SEKIGUCHI, Minoru)[JP/JP]

前田芳晴(MAEDA, Yoshiharu)[JP/JP]

〒211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号

富士通株式会社内 Kanagawa, (JP)

井上典昭(INOUE, Noriaki)[JP/JP]

中平利一(NAKAHIRA, Toshikazu)[JP/JP]

松本安生(MATSUMOTO, Yasuo)[JP/JP]

〒652-8510 兵庫県神戸市兵庫区御所通1丁目2番28号

富士通テン株式会社内 Hyogo, (JP)

(74) 代理人

大管義之(OSUGA, Yoshiyuki)

〒102-0084 東京都千代田区二番町8番地20

二番町ビル3階 Tokyo, (JP)

(81) 指定国 US, 欧州特許 (DE, FR, GB)

添付公開書類

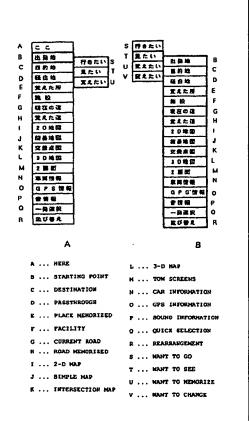
国際調査報告書

(54) Title: ELECTRONIC PROCESSOR WITH MENU INTERFACE

(54)発明の名称 メニューインタフェースを有する電子処理装置

#### (57) Abstract

A layer for selecting an object and a layer for selecting a predicate are provided in a layered menu, thereby providing the user with a regular arrangement of menu items and improving the operability. The layer for object may be higher than that for predicate, or vice versa. Their ranking may be changed using a menu. Grouped options of layers are provided as upper layer menu options according to the history of use, so that quick input is possible and the operability is improved. In addition, the menu options are changed according to a user's attribute such as age or gender, thus further improving the operability.



階層型メニューとして、目的語を選択内容とする階層と、述語を選択内容とする階層を設けることにより、規則的なメニュー項目の並びを利用者に提供し、操作性が向上した。目的語の階層を上位に、述語の階層を下位にしても、また述語の階層を上位に、目的語の階層を下位にしても良い。また、両者をメニューにより切り換える様にしても良い。

また、使用履歴等に応じて複数階層の選択肢を組にして選択肢を設け上位のメニュー選択肢として提供することにより、高速入力を可能にし、操作性が向上した。

加えて、年齢、性別等の利用者の属性に応じてメニュー選択肢を変化させ、操作性が向上した。

PCTに基づいて公開される国際出願のパンフレット第一頁に掲載されたPCT加盟国を同定するために使用されるコード(参考情報)

RSSSSSSSTTTTTTTTUUCUUVYZZW RSSSSSSSSTTTTTTTTTUUCUUVYZZW ルファンループンルルリクガロズ・エーアン デーニキレ ン タアニ ッナ メナスカエ デーニキレ ン タアニ ッナ ストーリブ デーニキレ ン タアニ ッナ タムラ 共一の マーアンルルリクガロズ・エーアン アーアンルルリクガロズ・エーアン アーアンルルリクガロズ・エーアン アーススシセスチトタタトトトゥウ米ウヴュ南ジ マーアン ア国 アローアン ア国

## 明細書

メニューインタフェースを有する電子処理装置

#### 5 技術分野

本発明は、メニューインタフェースを有する電子処理装置に関し、特に、使い易いメニューを表示するメニューインタフェースを有する電子処理装置に関する。

# 10 背景技術

15

20

対話処理を実行する電子処理装置では、メニューを表示し、そのメニューから選択される項目(メニュー項目)に対応する処理を実行する構成が採用されていることが多い。このようなメニューを表示する電子処理装置では、使い易いメニューを表示することにより、使い易いインタフェースを実現していく必要がある。

図1は、従来技術を説明する図である。図1に示すメニューは、階層的に構成されており、上位階層のメニュー項目として、「ファイル」/「編集」/「修飾」/「表示」/「図形」/「オプション」/「ウィンドウ」/「ヘルプ」を表示する。そして、このメニューから「ファイル」が選択されると、「ファイル」の下位階層のメニューとして、「新規作成」/「開く」/「指定して開く」・・・・が表示される。また、「編集」が選択されると、その下位階層のメニューとして、「元に戻りません」/「繰り返しできません」/「切り取り」・・・・が表示される。

このように、従来技術のメニューは、メニュー項目の並べ方について特に規 25 則性がなかった。上述の例では、メニュー画面中のある1つの階層内に、「フ ァイル」や「図形」などの名詞に対応するメニュー項目と、「編集(する)」や 「修飾(する)」などの動詞に対応するメニュー項目とが混在して表示されて いる。

このように、従来のメニューは、メニュー項目の並べ方について特に規則性を有していなかったので、ユーザは、しばしば、メニューを用いた操作に煩わしさを感じることがあった。たとえば、ファイルを編集したいときに、上記メニューにおいては、「ファイル」を先に選択すべきか、あるいは「編集」を先に選択すべきなのかが分かりづらい。また、従来のメニューでは、メニューの全体的な構造を把握することが困難であった。さらに、従来のメニューでは、

10 メニュー項目ごとに階層の深さ又は段階が不均一であり、実行すべき処理によっては多数の階層のメニューの操作が必要であった。

また、従来技術のメニューが利用される場合、頻度の高い処理や、システムの緊急停止などの急を要する処理を即座に実行することはできない。例えば、「ウィンドウを左右に並べて表示(する)」という処理を要求する場合には、

15 まず、上位階層のメニューから「ウィンドウ」を選択し、続いて、「ウィンドウ」の下位階層のメニューから「左右に並べて表示」を選択する必要がある。 すなわち、階層化されているメニューを上位階層から1つずつ順番に開きなが ら、各階層からメニュー項目を順番に選択していく必要がある。

このように、従来のメニューにおいては、頻繁の高い処理や、急を要する処 20 理などを即座に実行することができず、不便であった。

さらに、従来技術のメニューは、ユーザ毎にカスタマイズされていなかった。 すなわち、各ユーザ毎にカスタマイズされたマンマシンインタフェースは提供 されていなかった。たとえば、男性が使用する場合でも、女性が使用する場合 でも同じメニューを表示する構成を採っていた。

25 このように、従来は、十分に使い易いメニュー表示が提供されているとは言

えず、ユーザの操作性を向上させるために改良すべき点が多々あった。

#### 発明の開示

25

本発明は、使い易いメニューを表示するメニューインタフェースを有する電 5 子処理装置を提供することを目的とする。

図2~図5は、本発明の原理を説明する図である。これらの図中、電子処理 装置1は、メニューを表示しつつ、所定の処理を実行する。

図2に示す電子処理装置1は、入力装置10、出力装置11、管理手段12、表示手段13、および選択手段14を備える。入力装置10は、ユーザまたは10 他の装置からの指示を受けつける。選択手段14は、入力装置10により受け付けられた指示に従って、出力装置11に表示されているメニュー項目を選択する。

管理手段12は、選択可能なメニュー項目として1以上の目的語を有する目的語メニューおよび選択可能なメニュー項目として1以上の述語を有する述語 メニューを管理する。ここで、目的語メニューを上位階層とする場合は、目的語メニューに属する目的語に対応する1以上の述語が述語メニューに属する。一方、述語メニューを上位階層とする場合は、述語メニューに属する述語に対応する1以上の目的語が目的語メニューに属する。表示手段13は、管理手段12により管理されるメニューを出力装置11に表示する。出力装置11は、表示手段13の指示に従ってメニューを表示する。

上記構成において、表示手段13は、管理手段12による管理に従って、目的語メニューを表示するとともに、選択手段14によりその目的語メニューからある目的語が選択されたときに、その選択された目的語に対応する述語を表示する。あるいは、表示手段13は、管理手段12による管理に従って、述語メニューを表示するとともに、選択手段14によりその述語メニューからある

20

述語が選択されたときに、その選択された述語に対応する目的語を表示する。

このように、図2に示す電子処理装置1では、「目的語→述語」という関係に従ってメニューを表示したり、「述語→目的語」という関係に従ってメニューを表示するので、メニューの全体的な構造の把握が簡単となり、また、操作が統一的となり、さらに、メニューの階層が均一化されることで使い易いメニューを実現できるようになる。

図3に示す電子処理装置1は、入力装置10、出力装置11、管理手段15、切替手段16、表示手段17、および選択手段18を備える。管理手段15は、第1および第2のメニュー構成を管理する。第1のメニュー構成は、メニュー10 項目として1以上の目的語を有する目的語メニューが上位階層であり、メニュー項目として1以上の述語を有する述語メニューがその目的語メニューの下位階層である。ここで、述語メニューに属する1以上の述語は、目的語メニューに属する1以上の目的語に対応して設けられている。一方、第2のメニュー構成は、メニュー項目として1以上の述語を有する述語メニューが上位階層であり、メニュー項目として1以上の目的語を有するは語メニューがその述語メニューの下位階層である。ここで、目的語メニューに属する1以上の目的語は、述語メニューに属する1以上の目的語は、述語メニューに属する1以上の目的語は、述語メニューに属する1以上の述語に対応して設けられている。

切替手段16は、入力装置10からの指示に従って、第1の表示モードまたは第2の表示モード指示する。第1の表示モードでは、上記第1のメニュー構成が表示され、第2の表示モードでは、第2のメニュー構成が表示される。表示手段17は、切替手段16により選択された表示モードに従って、出力装置11にメニューを表示する。また、選択手段18は、入力装置10からの指示に従って、出力装置11に表示されているメニューからメニュー項目を選択する。

25 このように、図3に示す電子処理装置1は、切替手段16により第1の表示

25

モードが選択された場合には、表示手段17は、目的語メニューを表示する。 そして、選択手段18によりその目的語メニューからある目的語が選択される と、表示手段17は、その選択された目的語に対応する述語を表示する。一方、 切替手段16により第2の表示モードが選択されたときには、表示手段17は、 述語メニューを表示する。そして、選択手段18によりその述語メニューから ある述語が選択されると、表示手段17は、その選択された述語に対応する目 的語を表示する。

このように、図3に示す電子処理装置では、「目的語→述語」という関係で構成されるメニュー、および「述語→目的語」という関係で構成されるメニューが用意されており、これらのメニューのうち、入力装置10からの指示に従って任意の一方のメニューが表示される。したがって、ユーザは、ある1つの操作を実行したいときに、「目的語」からスタートするメニューあるいは「述語」からスタートするメニューのうちの所望の一方を選択することがでる。これにより、ユーザにとって使い易いメニューが実現される。

図4に示す電子処理装置1は、入力装置10、出力装置11、管理手段19、表示手段20、選択手段21、登録手段22、および削除手段23を備える。管理手段21は、階層構造のメニューの構成を定義するメニューデータを管理する。なお、表示手段20は、管理手段19により管理されているメニューデータに従って、出力装置11にメニューを表示する。また、選択手段21は、入力装置10からの指示に従って、複数のメニュー階層からメニュー項目を1つずつ選択する。

登録手段22は、選択手段21により選択された複数のメニュー項目の組合 せにより定義される新たなメニュー項目を管理手段19に登録する。削除手段 23は、登録手段22により登録されたメニュー項目を管理手段19から削除 する。 上記構成において、選択手段21により複数のメニュー階層からメニュー項目が選択されると、登録手段22は、対話処理または各メニュー項目の属性に従って、それら選択されたメニュー項目の組合せにより定義される新たなメニュー項目を管理手段19に登録する必要があるのか否かを判断し、登録する必要がある場合には、その新たなメニュー項目を管理手段19に登録する。一方、削除手段23は、対話処理またはメニュー項目の属性に従って、登録手段22により登録されたメニュー項目を管理手段19から削除する必要があるのか否かを判断し、削除する必要がある場合には、そのメニュー項目を管理手段19から削除する。なお、上記対話処理においては、ユーザまたは他の装置からの指示は、入力装置10および選択手段21を介して登録手段22または削除手段23に与えられる。、

10

15

20

25

このように、図4に示す電子処理装置によれば、所望の処理の実行に係わる メニュー項目を一回の操作で選択できる。すなわち、従来のメニューであった ならば、階層化されているメニューを階層ごとに順番に開きながら各階層から メニュー項目を選択していく操作により指定することが可能となるようなメニ ュー項目を、本発明の方法によれば、一回の操作でそれを選択することができ る。

図5に示す電子処理装置1は、入力装置10、出力装置11、管理手段24、取得手段25、特定手段26、表示手段27、および選択手段28を備える。管理手段24は、各ユーザが属するカテゴリに対応するメニューの構成を定義するメニューデータを管理する。取得手段25は、各ユーザが属するカテゴリを取得する。特定手段26は、取得手段25により取得されたカテゴリに対応するメニュー構成を特定する。表示手段27は、特定手段26により特定されたメニュー権成を特定する。選択手段28は、入力装置10からの指示に従って、出力装置11に表示されているメニューの中から所望のメニュ

#### 一項目を選択する。

上記構成において、ユーザが属するカテゴリが取得手段25により取得されると、特定手段26は、その取得手段25により取得されたカテゴリに対応するメニュー構成を特定する。そして、表示手段27は、特定手段26による特定に基づいて、ユーザが属するカテゴリに対応するメニューを出力装置11に表示する。

このように、図5に示す電子処理装置によれば、ユーザ毎にカスタマイズされたメニューを表示できるので、各ユーザに適したインタフェースが提供される。

10

5

# 図面の簡単な説明

図1は、従来技術を説明する図である。

図2~図5は、本発明の原理構成図である。

図6は、本発明が適用された電子処理装置のブロック図である。

15 図7は、メニュー構造を説明するための図である。

図8および図9は、カーナビゲーションシステムにおいて用いられるニュー の構成の一例である。

図10A、図10B、図11A、および図11Bは、メニュー画面の例である。

20 図12および図13は、メニューを表示するための処理を記述したプログラムの例である。

図14は、図10Aに示すメニューのためのメニューデータである。

図15は、メニューを表示するための処理のフローチャートである。

図16は、図10Bに示すメニューのためのメニューデータである。

25 図17は、図11Aに示すメニューのためのメニューデータである。

図18は、図11Bに示すメニューのためのメニューデータである。

図19は、メニューを表示するための処理のフローチャートである。

図20および図21は、表示モード切替機能を備えたメニューの例である。

図22および図23は、それぞれ図20および図21に示すメニューのため 5 のメニューデータである。

図24は、メニューカスタマイズユニットの機能を説明する図である。

図25は、メニューカスタマイズユニットにより実行される登録処理を説明する図である。

図26は、新たに生成されたメニュー項目に対応する関数を登録する処理を 10 説明する図である。

図27は、メニューカスタマイズユニットにより実行される登録処理の他の方法を説明する図である。

図28は、見出し生成処理のプログラムの例である。

図29は、見出し生成処理のフローチャートである。

15 図30は、使用頻度に応じてメニュー項目を登録する処理のプログラムの例である。

図31は、使用頻度に応じてメニュー項目を登録する処理のフローチャートである。

図32は、先に登録されているメニュー項目を削除する処理を説明する図で 20 ある。

図33は、削除すべきメニュー項目を決定する処理のプログラムの例である。

図34は、削除すべきメニュー項目を決定する処理のフローチャートである。

図35は、ユーザに適したメニューを提供する処理を説明する図である。

図36は、ユーザが属するカテゴリごとに用意されるメニューの例である。

25 図37は、本発明の処理を記述したプログラムを実行するコンピュータのブ

ロック図である。

図38は、本発明に係わるソフトウェアプログラム等の提供方法を説明する図である。

## 5 発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の実施形態について説明する。

図6は、本発明が適用された電子処理装置のプロック図である。

電子処理装置1は、入力装置30、出力装置40、演算装置50、および記憶装置60を備える。入力装置30は、例えば、マウス、キーボード、あるいはタッチパネル等である。出力装置40は、例えば、液晶ディスプレイ、CRTディスプレイ等である。演算装置50は、例えば、CPUである。記憶装置60は、例えば、半導体メモリ、磁気ディスク等である。

入力装置30は、出力装置40に表示されているメニューを利用して入力される指示(選択指示)を受け付けるための処理を実行するメニュー選択ユニット300は、マウスのクリック、キーボードのキー操作、またはタッチパネルのタッチ入力を検出することにより、ユーザまたは他の装置(以下、「ユーザまたは他の装置」のことを、単に、「ユーザ」と呼ぶ。)により選択されたメニュー項目を認識する。なお、メニュー選択ユニット300は、図2~図5に示す選択手段14、18、21、または20 28に対応する。

出力装置40は、メニューを表示するための処理を実行するメニュー表示ユニット400を備える。メニュー表示ユニット400は、図2~図5に示す表示手段13、17、20、または27に対応する。

演算装置50は、メニューを定義するメニューデータを管理するための処理 25 を実行するメニュー管理ユニット500、メニューをカスタマイズする処理を 実行するメニューカスタマイズユニット501を備える。メニュー管理ユニット500およびメニューカスタマイズユニット501は、予め記述されたプログラムを実行することにより実現される。記憶装置60には、メニューの構成を表すメニューデータ600が格納されている。

5 電子処理装置1において使用されるメニューは、図7に示すように、階層的 に構成されている。各階層は、それぞれ1以上のメニューセルにより構成され ており、メニューデータ600は、複数のメニューセルを階層的に関係づける ことにより構成される。

メニューセルは、1つのメニュー項目を実現するための構造体であり、それ 10 ぞれ以下の情報により定義される。

項目番号:各メニュー項目を識別するための番号であり、メニュー階層番号および階層内番号から構成される。図7に示す例では、項目番号は、「menu [i][j]」で表されている。ここで、[i]は、第i番目の階層を表し、[j]は、その階層の中で第j番目のメニュー項目を表す。

15 **遷移先番号**:当該メニュー項目が選択されたときに、遷移すべき先のメニュー 階層の番号である。

関数番号: 当該メニュー項目が選択されたときに実行すべき関数を識別するための番号である。

図8および図9は、カーナビゲーションシステムにおいて用いられるメニュ 20 ーの構成の一例を示す図である。これらのメニューの構成は、メニューデータ 600として図6に示す記憶装置60に格納される。

図8に示すメニューは、目的語(または名詞)が上位階層のメニューに属し、 それらの目的語に対応する述語(または動詞)が下位階層のメニューに属する データ構造を有している。

25 すなわち、図8に示すメニューでは、上位メニュー階層に、「ここ」/「出

25

発地」/「目的地」/「経由地」/「覚えた所」/「施設」/「現在の道」/「覚えた道」/「2D地図」/「簡易地図」/「交差点図」/「3D地図」/「2画面」/「車両情報」/「GPS情報」/「音情報」/「一発選択」/「並び替え」などの目的語が属している。また、下位メニュー階層には、上位階層に属する目的語に対応する「行きたい」、「覚えたい」などの述語が属している。例えば、上位階層に属する「出発地」という目的語に対して、「行きたい」「見たい」および「覚えたい」という述語が対応付けられている。

一方、図9に示すメニューは、述語(または動詞)が上位階層のメニューに 属し、それらの述語に対応する目的語(または名詞)が下位階層のメニューに 10 属するデータ構造を有している。

すなわち、図9に示すメニュー構成では、上位メニュー階層に、「行きたい」 /「見たい」/「覚えたい」/「変えたい」などの述語が属している。また、 下位メニュー階層には、上位メニュー階層に属する述語に対応する「ここ」「出 発地」「覚えた所」などの目的語が属している。

15 なお、図8または図9に示すメニュー構造において、目的語と述語との対応 関係は、予め決められて記憶装置60に登録されている。

メニュー管理ユニット500は、図8に示すメニュー構成を利用する場合には、たとえば、図10Aまたは図11Aに示すように、出力装置40に目的語メニューを表示する。図10Aは、メニューがポップアップ形式で表示されている例であり、図11Aは、メニューがボタンメニュー形式で表示されている例である。これらの表示に係わる処理は、メニュー表示ユニット400により実行される。なお、目的語に属する各目的語は、それぞれユーザにより選択可能なメニュー項目である。

出力装置40に表示されている目的語メニューからある目的語が選択されると、その選択された目的語に対応する述語が属するメニュー(述語メニュー)

10

15

20

25

が表示される。例えば、図10Aまたは図11Aに示す例では、目的語メニューのから「出発地」が選択され、これにより、「出発地」に対応する述語として、下位階層に属する「行きたい」「見たい」「覚えたい」が表示されている。これらの述語は、それぞれユーザにより選択可能なメニュー項目である。なお、各目的語とそれに対応する述語との関係は、図8を参照しながら説明したように、メニューデータ600として記憶装置60に格納されている。

一方、メニュー管理ユニット500は、図9に示すメニュー構成を利用する場合には、たとえば、図10Bまたは図11Bに示すように、出力装置40に述語メニューを表示する。図10Bは、メニューがポップアップ形式で表示されている例であり、図11Bは、メニューがボタンメニュー形式で表示されている例である。この場合、述語メニューに属する各述語は、それぞれユーザにより選択可能なメニュー項目である。

この場合、出力装置40に表示されている述語メニューからある述語が選択されると、その選択された述語に対応する目的語が属するメニュー(目的語メニュー)が表示される。例えば、図10Bまたは図11Bに示す例では、述語メニューのから「見たい」が選択され、これにより、「見たい」に対応する目的語として、下位階層に属する「出発地」…「並べ替え」が表示されている。これらの各目的語も、それぞれユーザにより選択可能なメニュー項目である。

図12は、図10Aまたは図10Bに示す形式でメニューを表示するための 処理を記述したプログラムの例である。第1セクションには、「マウスがON であったときに、表示すべきメニュー階層としてルートメニューを設定し、そのメニュー階層を描画する処理」が記述されている。第2セクションには、「メニュー項目を入力する処理、マウスがOFFにされたときに対応する関数の番号を設定する処理、およびその関数番号が存在するときにその関数を実行する 処理」が記述されている。なお、マウスポインタがあるメニュー項目にオーバ

10

15

20

ーラップした状態でマウスがクリックされたときに(マウスがスイッチオンされた後にスイッチオフされたとき)、そのメニュー項目が選択されたものと認識される。そして、第3セクションには、「マウスがONであったならば、次のメニュー階層の番号を設定する処理、そのメニュー階層の番号が存在するときに、表示すべきメニュー階層としてその番号に対応するメニュー階層を設定する処理、およびそのメニュー階層を描画する処理」が記述されている。

一方、図13は、図11Aまたは図11Bに示す形式でメニューを表示するための処理を記述したプログラムの例である。第1セクションには、「表示すべきメニュー階層としてルートメニューを設定する処理、およびそのメニュー階層を描画する処理」が記述されている。第2セクションには、「メニュー項目を入力する処理、関数の番号を設定する処理、およびその関数番号が存在するときに、その関数を実行する処理」が記述されている。そして、第3セクションには、「次のメニュー階層の番号を設定する処理、その番号が存在するときに、表示すべきメニュー階層としてその番号に対応するメニュー階層を設定する処理、およびそのメニュー階層を描画する処理」が記述されている。

図14は、図10Aに示すメニュー表示を実現するためのメニューデータの例である。「メニュー階層番号」は、1以上のメニュー項目を含むメニュー階層を識別する。「階層内通番」は、各メニュー階層ごとにメニュー項目を識別する。「見出し番号」は、各メニュー項目などに対してメニューデータ内で一意に割り当てられる識別番号である。「遷移先メニュー階層番号」は、当該メニュー項目が選択されたときに、出力装置11に表示すべきメニュー階層を指示する。「呼び出される関数番号」は、当該メニュー項目が選択されたときに、呼び出されて実行される関数を識別する。

図15は、図10Aに示すメニューを表示するための処理のフローチャート 25 である。ステップS1では、マウスのON操作(すなわち、マウスのボタンが

15

20

押されたこと)をモニタする。なお、ここでは、入力装置10としてマウスを 採り上げるが、キーボードまたはタッチパネル等であってもよい。

ステップS2では、表示すべきメニューのメニュー階層番号としてルートメ ニューのメニュー階層番号を設定する。そして、ステップS3において、ステ ップS2で設定されたメニュー階層番号に対応するメニューを表示する。実施 例では、「メニュー階層番号=0001」が設定され、図10Aに示す「ここ」 …「並び替え」を含むメニューが表示されている。

ステップS11では、ステップS3において表示されたメニュー階層のなか から、ステップS1の操作により指示されたメニュー項目に対応する階層内通 番を読みとる。ステップS12では、マウスのOFF操作(マウスのボタンが 10 離されたこと)をモニタする。ステップS13では、表示されているメニュー 階層のメニュー階層番号およびステップS11で読み取られた階層内通番に基 づいて、呼び出すべき関数を決定する。ステップS14では、その決定された 関数が存在するか否かが調べられる。そして、ステップS15において、その 関数が実行される。

ステップS21では、マウスのON操作をモニタする。ステップS22では、 ステップS21の操作により指示されたメニュー項目に対応する階層内通番を 読みとり、表示されているメニュー階層のメニュー階層番号およびその階層内 通番に基づいて、遷移先のメニュー階層を決定する。ステップS23では、遷 移先のメニュー階層が存在するか否かが調べられる。ステップS24では、表 示すべきメニュー階層のメニュー階層番号として、ステップS22で決定され たメニュー階層番号を設定する。そして、ステップS25において、そのメニ ュー階層が表示される。

実施例では、「出発地」が選択されると、「階層内通番=0002」が読み出 される。そして、「メニュー階層番号=0001」および「階層内通番=00 25

02」に従って、「遷移先メニュー階層番号=0012」が得られる。これにより、「行きたい」「見たい」「覚えたい」を含む述語メニューが表示される。

この後、処理はステップS1に戻る。したがって、ステップS25において表示された述語メニューからメニュー項目が選択されると、そのメニュー項目に対応する関数が呼び出されて実行される。

図16は、図10Bに示すメニュー表示を実現するためのメニューデータの例である。このメニューデータの構成は、基本的に、図14に示した構成と同じである。また、図10Bに示すメニューを表示するための処理は、図15のフローチャートにより実現される。

- 10 図17および図18は、それぞれ図11Aおよび図11Bに示すメニュー表示を実現するためのメニューデータの例である。これらのメニューデータの構成も、基本的に、図14に示した構成と同じである。なお、あるメニュー階層に属するメニュー項目の数が多く、それらを一画面内に表示できない場合には、そのメニュー階層は、メニューデータ内で仮想的に複数のメニュー階層に分割して管理されることがある。たとえば、図17において、「ここ」「出発地」「施設」および「現在の道」は、すべて目的語メニューに属するメニュー項目であるが、メニューデータ内では、「ここ」「出発地」および「施設」が「メニュー階層番号=0001」に対応する階層に属し、一方、「現在の道」が「目入0階層番号=0002」に対応する階層に属している。
- 20 図19は、図11Aまたは図11Bに示すメニューを表示するための処理のフローチャートである。このフローチャートの手順は、図15に示したフローチャートのそれと共通点が多いので、ここでは説明を省略する。

このように、本実施形態の電子処理装置1では、「目的語→述語」という手順(先に「何を」が決定され、後に「どうする」が決定される手順)に従ってメニューを表示したり、「述語→目的語」という手順(先に「どうする」が決

15

20

25

定され、後に「何を」げ決定される手順)に従ってメニューを表示する。この ため、メニューの全体的な構造の把握が簡単であり、ユーザの操作が統一的と なり、メニューの階層が均一化されることで、使い易いメニューが実現される。

上記実施例では、「目的語→述語」型のメニューまたは「述語→目的語」型のメニューを表示する方法を示したが、下記に示す実施形態の電子処理装置は、これら2つのメニューを提供し、使用すべきメニューをユーザに選択させる。これにより、ユーザにとってより使い易いメニューが提供されることになる。図20および図21は、表示モード切替機能を備えたメニューの例である。ここでは、メニューがボタンメニュー形式で表示される場合を示す。

図20に示す例では、目的語メニューには、述語メニューを表示するための 切替ボタンが設けられており、一方、述語メニューには、目的語メニューを表示するための切替ボタンが設けられている。メニュー表示の初期段階において は、基本的に、目的語メニューまたは述語メニューの一方が表示される。たとえば、上位階層のメニューとして目的語メニューが表示されている状態において、切替ボタンが選択されると、述語メニューが表示されると共に、目的語メニューは画面上から消去される。この場合、述語メニューが上位階層メニューとなす。一方、上位階層のメニューとして述語メニューが表示されている状態において、切替ボタンが選択されると、目的語メニューが表示されている状態において、切替ボタンが選択されると、目的語メニューが表示されている状態において、切替ボタンが選択される。この場合、目的語メニューが上位階層のメニューとなる。なお、目的語メニューまたは述語メニューが表示されている状態で所望のメニュー項目が選択された場合の動作は、図10~図19を参照しながら説明した通りである。

図21に示す例では、図20に示した構成に加え、目的語メニューまたは述語メニューをユーザに選択させるためのメニュー(選択用メニュー)が設けられる。この選択用メニューにおいて、「何を」は、目的語メニューを選択する

25

ためのボタンであり、「したい」は、述語メニューを選択するためのボタンである。

この構成では、メニュー表示の初期段階において選択用メニューが表示される。 そして、選択されたボタンに従って目的語メニューまたは述語メニューが表示 される。以降の動作は、図20に示したメニューの場合と同じである。

上記構成を導入すれば、ユーザは、「目的語→述語」型のメニューを表示する表示モードまたは「述語→目的語」型のメニューを表示する表示モードを任意に選択できるので、便利である。

図22は、図20に示すメニュー表示を実現するためのメニューデータの例である。このメニューデータにおいて、レコードAには、目的語メニュー内に設けられる切替ボタンのための情報が格納されており、その「遷移先メニュー階層番号」として、述語メニューを表す番号(=2001)が登録されている。また、レコードBには、述語メニュー内に設けられる切替ボタンにための情報が格納されており、その「遷移先メニュー階層番号」として、述目的語ニューを表す番号(=1001)が登録されている。このリンク情報により、メニューの切替表示が実現される。

図23は、図21に示すメニュー表示を実現するためのメニューデータの例である。このメニューデータにおいて、選択用メニューのための情報は、レコードC〜Eに登録されている。レコードCには、ユーザに目的語メニューを選
20 択させるためのボタンに係わる情報が格納されており、その「遷移先メニュー階層番号」として、目的語メニューを表す番号(=1001)が登録されている。また、レコードDには、ユーザに述語メニューを選択させるためのボタンに係わる情報が格納されており、その「遷移先メニュー階層番号」として、述目的語ニューを表す番号(=2001)が登録されている。

上記実施例では、目的語メニューおよび述語メニューを設ける構成を説明し

15

たが、本発明はこれらのメニューに限定されるものではない。たとえば、補語 メニュー、名詞メニュー、動詞メニュー、形容詞メニュー、副詞メニュー、形 容動詞メニューなどを設けてもよい。

次に、メニューカスタマイズユニット 5 0 1 が実行する処理について説明す 5 る。

メニューカスタマイズユニット501は、互いに異なるメニュー階層においてそれぞれ選択された複数のメニュー項目の組合せにより定義される新たなメニュー項目を生成し、その新たなメニュー項目を登録する機能を有する。図24に示す例では、上位階層のメニューである述語メニューから選択された「見たい」と、下位階層のメニューである目的語メニューから選択された「施設」との組み合わせで定義される「施設を見たい」が生成され、その新たに生成されたメニュー項目がメニューデータに登録されている。

この新たに生成されたメニュー項目は、以降、たとえば、述語メニューまたは目的語メニューに属する。実施例では、「施設を見たい」は、述語メニューに属するメニュー項目として表示されている。この場合、述語メニューにおいて「施設を見たい」が選択されると、述語メニューから「見たい」が選択された後に目的語メニューから「施設」が選択された場合と同じ処理が実行されることになる。

このように、本実施形態の電子処理装置によれば、メニューカスタマイズユ 20 ニット501を設けたことにより、従来であれば、階層化されているメニュー を順番に開きながら各メニュー階層のメニュー項目を1つずつ順番に選択して いく操作が必要であった処理であっても、一回の選択操作で実行することができる。

図 2 5 は、メニューカスタマイズユニット 5 0 1 により実行される登録処理 25 を説明する図である。

15

見出しテーブル100は、複数のメニュー項目の組合せと、その組合せにより生成される新たなメニュー項目として表示されるべき表示内容との対応関係を管理する。そして、メニューカスタマイズユニット501は、この見出しテーブル100を利用して、デフォルトとして定義されているメニュー項目以外の新たなメニュー項目を登録する。

すなわち、メニューカスタマイズユニット501は、先ず、ステップ1において、対話処理においてユーザにより選択された複数のメニュー項目を認識する。実施例では、ユーザとの対話において、上位メニュー階層(i1=1)から、「見たい」というメニュー項目(j1=2)が選択され、下位メニュー階層(i2=12)から、「施設」というメニュー項目(j2=5)が選択されたことを認識している。

また、このステップ1においては、さらに、この認識したメニュー項目の番号 (j1, j2)を検索キーとして見出しテーブル100を検索することにより、新たに生成すべきメニュー項目の見出し(表示内容)を決定する。実施例では、メニュー項目の番号「j1=2, j2=5」を検索キーとして見出しテーブル100を検索することにより、新たなメニュー項目の見出しとして、「施設を見たい」が取得されている。

続いて、ステップ2において、ステップ1で取得した見出しを持つメニュー項目を、記憶装置60に格納されるメニューデータ600に登録して処理を終

20 了する。ここで、この新たに登録されたメニュー項目に割りあてられる関数は、「見たい」が選択されたときに呼び出される関数と、その後に「施設」が選択されたときに呼び出される関数とを組み合わせたものと実質的に同じものである。具体的には、例えば、図26に示すように、メニューデータ中に「施設を見たい」のためのレコードを作成し、そのレコードの「呼び出される関数」として、「見たい」が選択されたときに呼び出される関数を指示する値ab、お

15

20

25

よび「施設」が選択されたときに呼び出される関数を指示する値x e が登録される。あるいは、「見たい」および「施設」が連続して選択されたときに実行すべきソフトウェアプログラムを予め用意しておき、「施設を見たい」に対応づけてそのプログラムを識別する番号を登録してもよい。なお、図26では、

5 「階層内番号」および「遷移先メニュー階層番号」は省略されている。

このように、メニューカスタマイズユニット501は、上位階層のメニューから選択されたメニュー項目と、下位階層のメニューから選択されたメニュー項目との組み合わせにより定義される新たなメニュー項目を生成し、それをメニューデータに登録する。これにより、ユーザは、必要とするメニュー項目を一操作で(一発で)選択できるようになる。

図25の実施例では、見出しテーブル100を用意することにより、新たに登録するメニュー項目の見出しを生成する構成を示したが、本実施形態の電子処理装置は、図27に示すように、新たなメニュー項目が生成されるごとにそのメニュー項目の見出しをソフトウェアプログラムを用いて作成することも可能である。

図27に示す方法では、ステップ1で、対話処理においてユーザにより選択されたカスタマイズ対象の複数のメニュー項目を認識すると、ステップ2では、それら複数のメニュー項目に従って新たなメニュー項目にための見出しが生成され、続いて、ステップ3で、その生成された見出しを持つメニュー項目が記憶装置60に格納されるメニューデータに登録される。

図28は、図27のステップ2における生成処理を実現するためのソフトウェアプログラムの一例である。図28に示す例では、例えば、上位階層のメニュー (ここでは、述語メニュー) から選択されるメニュー項目が「行きたい」ならば、下位階層のメニュー (ここでは、目的語メニュー) から選択されるメニュー項目 (×××) との間に「に」を挿入することにより、「×××に行き

25

たい」という見出しを生成する処理、上位階層のメニューから選択されるメニュー項目が「見たい」ならば、下位階層のメニューから選択されるメニュー項目(×××)との間に「を」を挿入することにより、「×××を見たい」という見出しを生成する処理が記述されている。このプログラムを実行することにより、選択された上位階層のメニューに属するメニュー項目と下位階層のメニューに属するメニュー項目とから見出しが生成される。

図29は、図27のステップ2の生成処理のフローチャートである。ここでは、述語メニューが上位階層であり、目的語メニューが下位階層であるものとして説明するが、このフローチャートの処理は、簡単な修正により、目的語が上位階層である場合にも適用可能である。

ステップS31では、述語メニューから選択されたメニュー項目の階層内通番(j1)を取得する。ステップS32では、目的語メニューから選択されたメニュー項目の階層内通番(j2)を取得する。ステップS33では、述語メニューのメニュー階層番号(i1)を取得する。ステップS34では、メニュー階層番号(i1)および階層内通番(j1)を用いて、目的語メニューのメニュー階層番号(j2)を算出する。ステップS35では、メニュー階層番号(i1)および階層内通番(j1)を用いて、述語メニューから選択されたメニュー項目の見出し(s1)を取得する。ステップS36では、メニュー階層番号(i2)および階層内通番(j2)を用いて、目的語メニューから選択されたメニュー項目の見出し(s2)を取得する。

ステップS 3 7では、述語メニューから選択されたメニュー項目の見出し(s 1)に基づいて使用すべき接続詞を決定する。たとえば、その見出しが「見たい」であれば、接続として「を」を出力し、また、「行きたい」であれば、「に」を出力する。ステップS 3 8では、見出し(s 1)、見出し(s 2)、およびステップS 3 7で決定された接続詞を用いて新たな見出し(s 3)を生成する。

そして、ステップS39において、ステップS38で生成された新たな見出し (s3)を出力する。

図25に示した実施例では、新たなメニュー項目がユーザとの対話処理により登録されているが、本実施形態では、新たなメニュー項目を自動的に登録することもできる。

例えば、メニュー項目ごとの使用頻度に基づいてユーザの操作パターンを推定し、それに基づいてそのユーザにとって適切なメニュー項目を自動的に登録するような形態が考えられる。この場合、メニュー項目ごとにユーザにより選択された回数をカウントアップし、その回数(例えば、最近における使用回数)が予め決められた所定値を超えたときに、一発選択のメニュー項目として登録する。たとえば、ユーザにより、「施設」を選択する操作と「見たい」を選択する操作からなるシーケンスが繰り返し行われた場合には、「施設を見たい」というメニュー項目が自動的に生成されて登録される。

図30は、使用頻度に基づいて新たなメニュー項目を登録する処理のプログラムの例である。このプログラムには、下位階層のメニュー(i2)に属するメニュー項目(j2)に対応して設けられるカウンタを、そのメニュー項目(j2)が選択される度に1つずつカウントアップする処理、及び、そのカウンタの値が閾値を超えており、且つ、上位階層のメニューのメニュー項目(j1)と上記メニュー項目(j2)との組み合わせで定義されるメニュー項目が先に登録されていなかったときに、その組合せにより定義されるメニュー項目を一発選択のメニュー項目として登録する処理が記述されている。

図31は、使用頻度に基づいて新たなメニュー項目を登録する処理のフローチャートである。ここで、ステップS31~S34は、図29を参照しながら説明した処理と同じである。

25 ステップS 4 1 では、メニュー階層番号 (i 2) および階層内番号 (j 2)

20

25

の組合せにより指定されるカウンタを1だけカウントアップする。ステップS 4 2 では、上記カウンタのカウント値が予め決められている閾値よりも大きいか否かを調べる。ステップS 4 3 では、メニュー階層番号 (i 2) および階層内番号 (j 2) の組合せにより定義されるメニュー項目が先に登録されているか否かを調べる。そして、上記カウント値が閾値を超えており、且つ、上記組合せにより定義されるメニュー項目が未登録であった場合には、ステップS 4 4 において、メニュー階層番号 (i 2) および階層内番号 (j 2) の組合せにを、組合せ識別情報 (s) として設定する。

ステップS45では、メニュー階層番号(i 2)および階層内番号(j 2) の組合せにより定義されるメニュー項目をメニューデータに登録する。このとき、この新たに登録されるメニュー項目のフラグがセットされる。このフラグは、ステップS43において当該メニュー項目が既に登録されているか否かを判断するために参照される値である。そして、ステップS46において、組合せ識別情報(s)が出力される。なお、一方、ステップS42またはS43の判断結果が「No」であったときは、ステップS47において組合せ識別情報(s)がクリアされる。

なお、一発選択メニュー項目を自動的に登録するという方法と、ユーザが手動的に登録するという方法とを選択できるようにしたり、それらを組み合わせることも可能である。すなわち、自動登録と手動登録とを切り替えることができるようにしたり、上位階層のメニューから選択できるようにしたり、或いは同一メニュー階層内で区分けすることも可能である。

また、上述の実施例では、メニューカスタマイズユニット501は、2つの 階層(述語メニューおよび目的語メニュー)からそれぞれ選択されたメニュー 項目を組み合わせにることにより新たなメニュー項目を生成して登録しているが、本発明はこの方法に限定されるものではなく、3以上のメニューからそれ

10

15

25

ぞれ選択されたメニュー項目を組み合わせにることにより新たなメニュー項目を生成して登録してもよい。たとえば、述語メニュー、目的語メニューの他に、 形容詞メニューや副詞メニューを設け、それらの各メニューから選択されたメニュー項目を組み合わせるようにしてもよい。この方法により、たとえば、「目的地に速く行く」あるいは「目的地に安く行く」などを登録することができる。 また、述語メニューおよび複数の目的語メニューからそれぞれ選択されたメニューを組み合わせてもよい。

また、上記実施例では、第1および第2のメニューから選択されたメニュー項目の組合せにより定義される新たなメニュー項目は、第1または第2のメニューに登録されたが、その新たなメニュー項目は、第1および第2のメニュー以外の他のメニューに登録されてもよい。たとえば、一発選択用のメニュー項目のみを表示するメニューを作成してもよい。

図25または図27に示した実施例では、一発選択メニュー項目の登録場所について特に説明しなかったが、登録場所に空きがある場合には、登録すべきメニュー内の先頭から順番に配置していったり、最後尾から順番に配置していったり、あるいは乱数などにより配置を決めたりする。そして、登録すべき空きスペースがない場合には、たとえば、最近における使用回数が最小のものと置換したり、あるいは登録時期が最も古いものと置換する。

メニューカスタマイズユニット501は、上記登録処理を実行するために、 20 先に登録した一発選択メニュー項目を削除する機能を持つ。

図32は、メニューカスタマイズユニット501により実行される一発選択 メニュー項目に対する削除処理の一実施例を示す図である。メニューカスタマ イズユニット501は、先に登録した一発選択メニュー項目を削除する必要が あるときには、先ずに、ステップ1で、先に登録されている一発選択メニュー 項目(この例では、「施設を見たい」と「簡易地図を変えたい」)の中から、削

10

15

除対象となる一発選択メニュー項目を選択し、ステップ2で、その選択した一 発選択メニュー項目をメニューデータから削除する。削除すべきメニュー項目 は、ユーザと対話により、あるいは予め決められた規則に従って決定される。 予め決められた規則としては、たとえば、最近における使用回数が最も少ない メニュー項目を削除する方法が考えられる。

図33は、削除すべきメニュー項目を決定する処理を記述したプログラムの例である。このプログラムには、下位階層のメニュー(i)に属するメニュー項目(j)に対応して設けられているカウンタの中からそのカウント値が最小であるメニュー項目を検出する処理、そのカウンタのカウント値をリセットする処理、および対応するメニュー項目をメニューデータ600から削除する処理が記述されている。

なお、図33に示すプログラムでは、使用回数が最小となる一発選択メニュー項目を削除しているが、使用回数が閾値以下である全ての一発選択メニュー項目を一括して削除したり、あるいは登録時期が最も古いメニュー項目や所定の時期よりも前に登録されたメニュー項目を削除するようにしてもよい。

図34は、削除すべきメニュー項目を決定する処理のフローチャートである。 ステップS51では、一発選択メニュー項目が属するメニューのメニュー階層 番号(i)を取得する。ステップS52では、各一発選択メニュー項目に対し て設けられているカウンタのカウント値が最小であるメニュー項目を検出する。

- 20 ステップS53では、ステップS52で検出されたメニュー項目の階層内通番 (j)を取得する。ステップS54では、メニュー階層番号(i)および階層 内通番(j)の組合せにより指定されるメニュー項目のカウンタをリセットす る。ステップS55では、メニュー階層番号(i)および階層内通番(j)の 組合せにより指定されるメニュー項目をメニューデータ600から削除する。
- 25 そして、ステップS56において、階層内通番(j)を出力する。

15

20

25

本実施形態の電子処理装置1は、更に、ユーザに適したメニュー生成して表示する機能を有する。

図35は、ユーザに適したメニューを生成して表示する処理を説明する図である。この処理は、図6に示したメニュー管理ユニット500により実行される。

ユーザに適したメニューを生成して表示するために、記憶装置60には、ユーザが属するカテゴリ毎に提供すべきメニューを管理するためのカテゴリ対応テーブル200が格納されている。ここで、ユーザを分類するためのカテゴリは、例えば、年齢、性別、血液型などにより決定される。そして、メニュー管理ユニット500は、カテゴリ対応テーブル200を用いて、ユーザに適したメニューを生成して表示する。

図36は、ユーザの属するカテゴリごとに用意されるメニューの構成の例である。ここでは、「カーナビゲーションシステムの起動」に対して用意されている複数のメニューを示している。なお、「施設に行く」「覚えた所に行く」「3 D地図を見る」などは、それぞれメニュー項目である。

メニュー管理ユニット500の動作を説明する。メニュー管理ユニット500は、先ず、ステップ1で、ユーザが属するカテゴリを取得する。例えば、メニュー管理ユニット500は、ユーザに年齢や性別などを入力させるための画面を表示することにより、対話形式でユーザから必要な情報を取得する。なお、これらの情報は、たとえば、カーナビゲーションシステムの場合は、自動車の販売者により入力されてもよいし、他の方法で入力されてもよい。

続いて、ステップS2では、ユーザが属するカテゴリを検索キーとしてカテゴリ対応テーブル200を検索し、そのカテゴリに対応するメニューデータを特定する。そして、ステップ3で、その特定したメニューデータに従ってメニューを表示する。これにより、ユーザに適したメニューが表示される。

15

20

25

このように、電子処理装置1は、ユーザの嗜好がそのユーザが属するカテゴ リと関係を持つことを考慮して、ユーザが属するカテゴリに適したメニューを 表示するので、ユーザにとって使い易いメニューが提供される。

本発明の機能は、コンピュータを用いて上述の処理を記述したプログラムを 実行することにより実現される。そのプログラムを実行するコンピュータのブロック図を図37に示す。

CPU1001は、上述の処理を記述したプログラムを記憶装置1002からメモリ1003にロードして実行する。記憶装置1002は、例えば半導体メモリまたはハードディスクであり、上記プログラムを格納する。一方、メモリ1003は、例えば半導体メモリであり、CPU1001の作業領域として使用される。

記憶媒体ドライバ1004は、CPU1001の指示に従って可搬性記憶媒体1005にアクセスする。可搬性記憶媒体1005は、半導体デバイス(ICカード等)、磁気的作用により情報が入出力される媒体(フロッピーディスク、磁気テープ等)、光学的作用により情報が入出力される媒体(光ディスク等)を含む。通信制御装置1006は、CPU1001の指示に従って網との間でデータを送受信する。

図38は、本発明に係わるソフトウェアプログラム等の提供方法を説明する 図である。本発明に係わるプログラムは、例えば、以下の3つの方法の中の任 意の方法により提供される。

- (a) コンピュータ 1 0 0 0 にインストールされて提供される。この場合、プログラム等は、たとえば、出荷前にプレインストールされる。
- (b) 可搬性記憶媒体に格納されて提供される。この場合、可搬性記憶媒体1 005に格納されているプログラム等は、基本的に、記憶媒体ドライバ 1004を介して記憶装置1002にインストールされる。

(c) 網上のサーバから提供される。この場合、基本的には、コンピュータ1 000がサーバに格納されているプログラム等をダウンロードすること によりそのプログラム等を取得する。

以上説明したように、本発明では、「目的語→述語」という順序でメニュー を表示したり、「述語→目的語」という順序でメニューを表示するので、メニューの全体的な構造の把握が簡単となり、ユーザの操作が統一的となり、メニューの階層が均一化されることで使いやすいメニューが実現される。

また、本発明では、「目的語→述語」型のメニュー、および「述語→目的語」型のメニューを用意し、ユーザにより選択された一方のメニューが表示されるので、ユーザの好みに応じて1つの操作を目的語または述語のいずれからでも選択でき、使い易いメニューが実現される。

さらに、従来であれば、頻繁に使用する操作に対応するメニュー項目や、急を要する操作に対応するメニュー項目であっても、階層化されるメニューを順番に開きながら各階層のメニューからメニュー項目を1つずつ順番に選択していく手順が必要であったが、本発明によれば、任意の処理を一操作で指定するためのメニュー項目を容易に作成して登録できるので、便利である。

また、本発明によれば、各ユーザに適したメニューを表示できるので、ユー ザの使い勝手が向上する。

#### 20 産業上の利用可能性

15

本発明は、カーナビゲーションシステムだけでなく、コンピュータ、音響機器、映像機器、通信機器など広く電子機器に適用される。

#### 請求の範囲

1. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

選択可能なメニュー項目として1以上の目的語を含む目的語メニューを表示 5 する表示手段と、

上記表示手段により表示されている目的語メニューから目的語を選択する選 択手段と、

上記選択手段により選択された目的語に対応する1以上の述語を、選択可能なメニュー項目として上記表示手段に表示させる管理手段と

- 10 を備える電子処理装置。
  - 2. 請求項1に記載の電子処理装置であって、

上記管理手段は、上記目的語メニューに属する各目的語とそれら各目的語に それぞれ対応する述語との関係を管理する。

- 3. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、
- 15 選択可能なメニュー項目として1以上の述語を含む述語メニューを表示する 表示手段と、

上記表示手段により表示されている述語メニューから述語を選択する選択手段と、

上記選択手段により選択された述語に対応する1以上の目的語を、選択可能 なメニュー項目として上記表示手段に表示させる管理手段と

を備える電子処理装置。

20

4. 請求項3に記載の電子処理装置であって、

上記管理手段は、上記述語メニューに属する各述語とそれら各述語にそれぞ れ対応する目的語との関係を管理する。

25 5. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

選択可能なメニュー項目として1以上の名詞を含む名詞メニューを表示する 表示手段と、

上記表示手段により表示されている名詞メニューから名詞を選択する選択手段と、

5 上記選択手段により選択された名詞に対応する1以上の動詞を、選択可能な メニュー項目として上記表示手段に表示させる管理手段と

を備える電子処理装置。

6. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

選択可能なメニュー項目として1以上の動詞を含む動詞メニューを表示する 10 表示手段と、

上記表示手段により表示されている動詞メニューから動詞を選択する選択手 段と、

上記選択手段により選択された動詞に対応する1以上の名詞を、選択可能な メニュー項目として上記表示手段に表示させる管理手段と

15 を備える電子処理装置。

20

7. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

第1の表示モードまたは第2の表示モードを指示する切替手段と、

上記切替手段により第1の表示モードが指示されたときは、選択可能なメニュー項目として1以上の目的語を含む目的語メニューを表示し、上記切替手段により第2の表示モードが指示されたときは、選択可能なメニュー項目として1以上の述語を含む述語メニューを表示する表示手段と、

上記表示手段により表示されている目的語メニューまたは述語メニューから メニュー項目を選択する選択手段と、

第1の表示モードにおいては、上記選択手段により選択された目的語に対応 25 する1以上の述語を選択可能なメニュー項目として上記表示手段に表示させ、 第2の表示モードにおいては、上記選択手段により選択された述語に対応する 1以上の目的語を選択可能なメニュー項目として上記表示手段に表示させる管 理手段と

を備える電子処理装置。

5 8. 請求項7に記載の電子処理装置であって、

上記目的語メニューには、表示モードを第1の表示モードから第2の表示モードに切り替えるための第1の切替ポタンが設けられており、上記述語メニューには、表示モードを第2の表示モードから第1の表示モードに切り替えるための第2の切替ポタンが設けられており、

- 10 上記切替手段は、上記第1の切替ポタンまたは上記第2の切替ポタンを選択することにより表示モードを指示する。
  - 9. 請求項7に記載の電子処理装置であって、

上記表示手段は、第1の表示モードまたは第2の表示モードを選択するため の選択用メニューを表示し、

- 15 上記切替手段は、上記選択用メニューを用いて表示モードを指示する。
  - 10. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

階層構造のメニューの構成を定義するメニューデータを管理する管理手段と、 上記管理手段により管理されるメニューデータに従ってメニューを表示する 表示手段と、

20 複数の階層からメニュー項目を1つずつ選択する選択手段と、

上記選択手段により選択された複数のメニュー項目の組合せにより定義されるメニュー項目を、上記メニューデータに登録する登録手段と を備える電子処理装置。

- 11. 請求項10に記載の電子処理装置であって、
- 25 上記管理手段により管理されているメニューデータから、上記登録手段によ

15

り登録されたメニュー項目を削除する削除手段をさらに有する。

12. 請求項11に記載の電子処理装置であって、

上記登録手段は、上記選択手段により選択された複数のメニュー項目の組合 せにより定義されるメニュー項目を上記メニューデータに登録するのか否かを 対話処理に従って判断し、

上記削除手段は、上記登録手段により登録されたメニュー項目を上記メニューデータから削除するのか否かを対話処理に従って判断する。

13. 請求項10に記載の電子処理装置であって、

上記登録手段は、上記選択手段により選択されたメニュー項目の使用状況に 10 応じて、上記組合せにより定義されるメニュー項目を上記メニューデータに登 録するか否かを判断する。

14. 請求項11に記載の電子処理装置であって、

上記削除手段は、上記登録手段により登録されたメニュー項目を上記メニュ ーデータから削除するのか否かを、それら登録されたメニュー項目の属性に基 づいて判断する。

15. メニューインタフェースを有する電子処理装置であって、

ユーザが属するカテゴリに対応するメニューの構成を定義するメニューデー タを管理する管理手段と、

ユーザが属するカテゴリを取得する取得手段と、

20 上記管理手段により管理されているメニューデータの中から、上記取得手段 により取得されたカテゴリに対応するメニューを特定する特定手段と、

上記特定手段により特定されたメニューを表示する表示手段と を備える電子処理装置。

- 16. メニューインタフェースを提供する方法であって、
- 25 選択可能なメニュー項目として1以上の目的語を含む目的語メニューを表示

するステップと、

上記目的語メニューから目的語を選択するステップと、

上記選択された目的語に対応する1以上の述語を、選択可能なメニュー項目 として表示するステップと

- 5 を備える方法。
  - 17. メニューインタフェースを提供する方法であって、

選択可能なメニュー項目として1以上の述語を含む述語メニューを表示する ステップと、

上記述語メニューから述語を選択するステップと、

10 上記選択された述語に対応する1以上の目的語を、選択可能なメニュー項目として表示するステップと

を備える方法。

18. メニューインタフェースを提供する方法であって、

階層構造のメニューの構成を定義するメニューデータを管理するステップと、

15 上記メニューデータに従ってメニューを表示するステップと、

複数の階層からメニュー項目を1つずつ選択するステップと、

上記選択された複数のメニュー項目の組合せにより定義されるメニュー項目 を、上記メニューデータに登録するステップと

を備える方法。

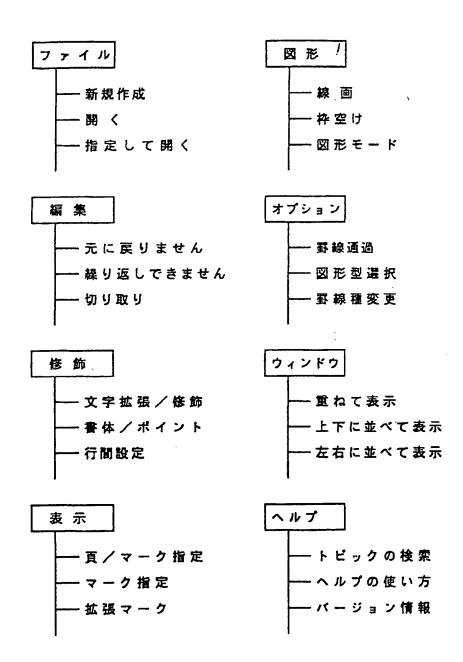


図 1

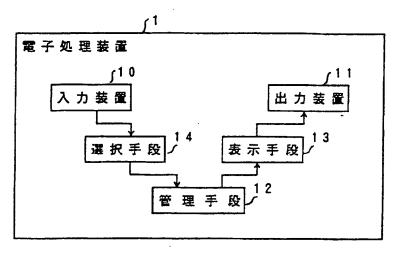


図 2

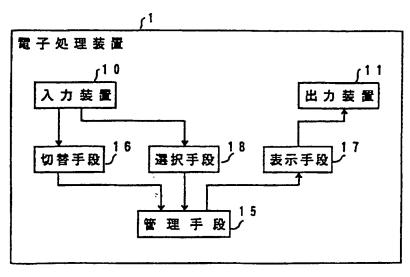


図 3

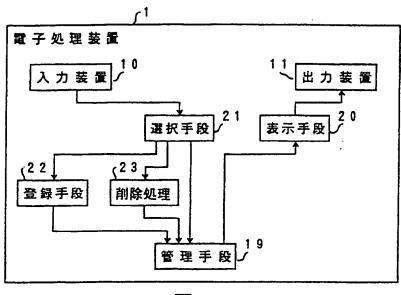


図 4

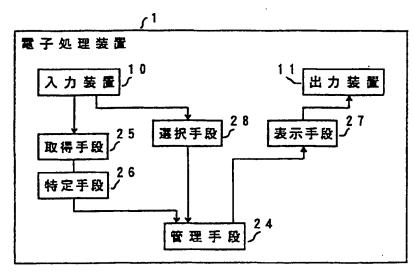


図 5

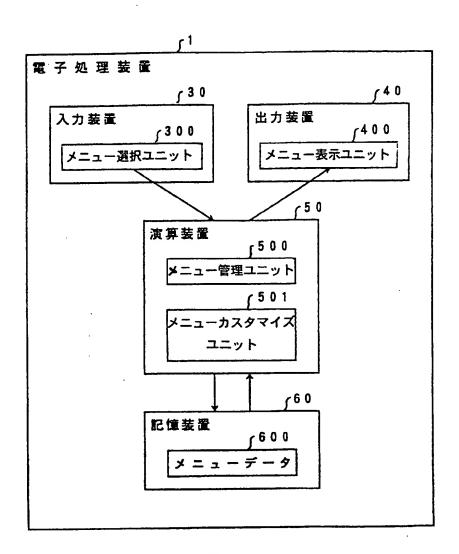
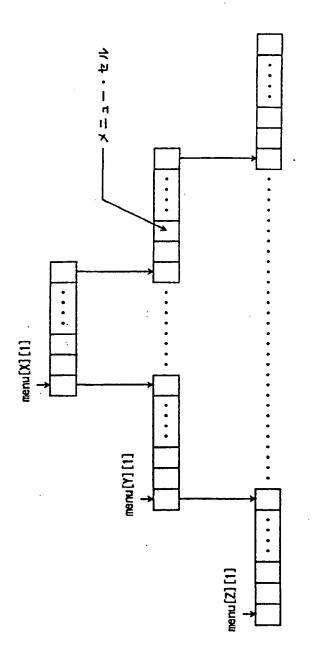


図 6



区7

こ こ 行きたい 覚えたい

出発地 行きたい 見たい 覚えたい

目 的 地 見 た い 覚 え た い 変 え た い

経 由 地 見 た い 覚 え た い 変 え た い

覚えた所 行きたい 見たい 変えたい

施 設 行きたい 見たい

現 在 の 道 見 た い 覚 え た い 変 え た い

党 え た 道 行きたい 見 た い 変えたい 2 D 地図 見たい 変えたい

簡易地図 見たい 変えたい

交差点図 見たい 変えたい

3 D 地図 見たい 変えたい

2 画 面 見たい 変えたい

車両情報 見たい

G P S 情報 見たい

音情報 見たい 変えたい

一発選択 見たい 変えたい

並び替え 見たい 変えたい 見たい 出発地 目的地 経由地 覚えた所 施設 現在の道 覚えた道 2 D地図 簡易地図 交差点図 3 D地図 2 画面 車両情報 G P S 情報 音情報 一発選択 並び替え

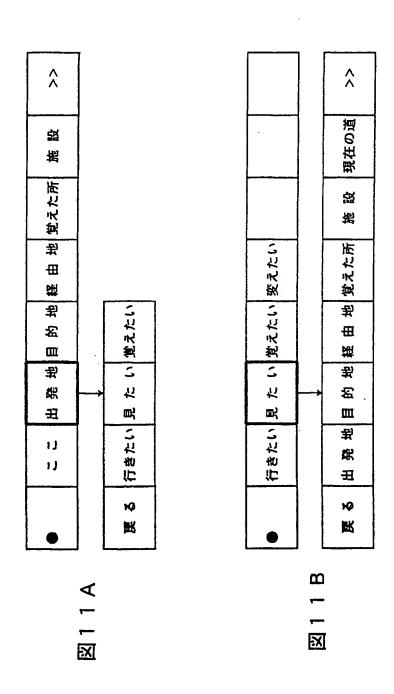
覚えこ出目経現 たこ発的由在 い 地地地の道

変え日経覚現覚2簡交32音一並た的由え在えD易差D画情発びた的地地たのた地地点地面報選替い地地所道道図図図 択え

ここ 行きたい 出発地 見たい 行きたい 出発地 目的地 覚えたい 見たい 目的地 変えたい 経由地 覚えたい 経由地 覚えた所 覚えた所 施設 施設 現在の道 現在の道 覚えた道 覚えた道 2 D地図 2 D地図 簡易地図 簡易地図 交差点図 交差点図 3 D地図 3 D地図 2 画面 2 画面 車両情報 車両情報 GPS情報 G P S'情報 音情報 音情報 一発選択 一発選択 並び替え 並び替え

図10A

図10B



```
label-1:
   if (mouse == ON) {
       i :=ROOT-MENU-NO;
       draw-menu (i);
   }
| a b e | -2 :
   input-menu (j);
   if (mouse==OFF) {
       k := menu(i)(j), func-no;
                                    2
       if (k!=NIL) {
          exec-func (k);
       goto label-1;
   if (mouse == ON) (
       h:=menu (i) (j). next-no;
       if (h!=NIL) {
                                    3
          i := h;
          draw-menu(i);
       }
       goto label-2;
   }
```

図12

```
i:=ROOT-MENU-NO;
draw-menu (i);
label:
    input-menu (j);
    k:=menu (i) (j). func-no;
    if (k!=NIL) {
        exec-func (k);
}

h:=menu (i) (j). next-no;
    if (h!=NIL) {
        i:=h;
        draw-menu (i);
}

goto label;
3
```

	メニュー階層番号	階層內通番	見出し番号	遷移先メニュー階層番号	呼び出される関数番号
	0001	1000	0001(55)	0011	
	0001	0002	0002 (出発地)	0012	
	0001	0003	0003 (目的地)	0013	
	•	•	•	٠	•
	• •	• •	• •	•	• •
	1000	0018	0018(並び替え)	0028	
	0001	0019	0205 (END)		
	•	•	•	•	•
=	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	•	•		• •
	0012	0001	0021 (行きたい)		
	0012	0002	0022 (見たい)		
•	0012	0003	0023 (覚えたい)		
	0012	0004	0205. (END)	-	
	•	•	•	•	•
	• •	• •	• •	•	• •
	•			•	_

<u>図</u> 1

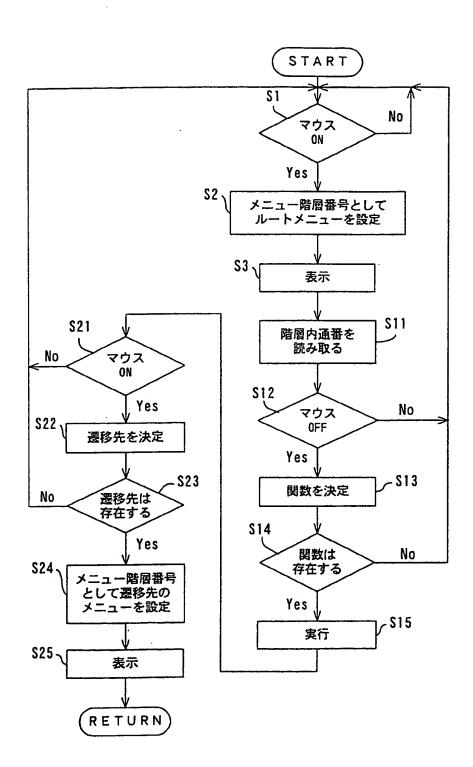


図15

 メニュー階層番号	階層內通番	見出し番号	遷移先メニュー階層番号	呼び出される関数番号
 0001	1000	0021 (行きたい)	0011	
0001	0002	0022 (見たい)	, 0012	
 0001	0003	0023 (地元たい)	0013	
 0001	0004	0024 (変えたい)	0014	
 1000	0002	0205 (END)		
• •	• •		• •	
0012	0001	> 0012 0001 0002 (出発地)		
0012	0005	0003(目的地)		
 0012	0003	0004(経由地)		
 • •	• •	•	• •	• •
0012	0017	0018(並び替え)		
0012	0018	0205. (END)	•	
	•	• (	•	·
•	•	•	•	• •

<u>図</u> 1

0001 0001 0201(こ) 0011 0001 0002 0001(ここ) 0011 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		メニュー階層番号	階層內通器	見出し番号	選移先メニュー階層番号	呼び出される関数番号
00001       00002       0001 (ここ)         00001       00003       00002 (出発地)         00001       00007       0006 (施設)         00002       00001       0202 (>>)         00002       0001       0203 (<<)         0012       0001       0204 (長冬)         0012       0002       (元十八)         0012       0003       0022 (見たい)         0012       0004       0023 (覚えたい)         0012       0005       0205 (END)	Ь	0001	1000	0201(•)		
00001       00002 (出発地)         00001       00007       0006 (施設)         00002       0001       0202 (>>)         0002       0001       0203 (<<)         0002       0001       0007 (現在の道)         0012       0001       0204 (戻る)         0012       0002       0021 (行きたい)         0012       0003       0022 (見たい)         0012       0004       0023 (覚えたい)         0012       0005       0205 (END)	<del></del>	0001	0002	0 0 1	0011	
00001       0007       0006 (施設)         0001       0008       0202 (>>)         0002       0001       0203 (<>)         0002       0001       0007 (現在の道)         0012       0001       0204 (戻る)         0012       0002       0021 (行きたい)         0012       0003       0022 (見たい)         0012       0004       0023 (覚えたい)         0012       0005       0205 (END)		0001	0 0	002	: 0012	
0001 0007 0006 (施設) 0001 0008 0202 (>>) 0002 0001 0203 (<<) 0002 0001 0204 (展を) 00012 00012 0001 (現在の道) 0012 00012 0002 (見たい) 0012 0003 (覚えたい) 0012 0005 0205 (END)		•	•	•	•	•
0001 0008 0202(>>) 0002 0001 0203(<>) 0002 0001 0203(<<) 00002 0001 (現在の道) 0012 0001 (日本の) 0012 0001 (日本の) 0012 0001 (日本の) 0012 0001 0002 (日本い) 0012 0001 0002 (日本い) 0012 0001 0001 0001 0001 0001 0001 000		0001	1000	0006(施設)	0016	
0002       0001       0203 (<<)	<u> </u>	0001	8000	202	0002	
0002       0007 (現在の道)         0012       0001       0204 (戻る)         0012       0002       0021 (行きたい)         0012       0003       0022 (見たい)         0012       0004       0023 (覚えたい)         0012       0005       0205 (END)		0002	0001	203	0001	
0012       0001       0204 (戻る)         0012       0002       0021 (行きたい)         0012       0003       0022 (見たい)         0012       0004       0023 (覚えたい)         0012       0005       0205 (END)		0002	0002	0007 (現在の道)	0017	
0012     0001     0204 (戻る)       0012     0002     0021 (行きたい)       0012     0003     0022 (見たい)       0012     0004     0023 (覚えたい)       0012     0005     0205 (END)	لت	•		•	•	•
0002 0021 (行きたい) 0003 0022 (見たい) 0004 0023 (覚えたい) 0005 0205 (END)			0001	204	0001	
0003 0022 (見たい) 0004 0023 (覚えたい) 0005 0205 (END)		0012	0002	021	0001	
0004 0023.(覚えたい) 0005 0205 (END)		0012	0003		0001	
0005 0205		0012	0004	0023.(覚えたい)	0001	
		0012	0005	205		
		٠	•	•	•	•.

図17

ニュー階層番号	階層內通番	見出し番号	遅移先メニュー階層番号	甲び出される関数番号
	0001	0201(•)		
	0002	0021 (行きたい)	0011	
	0003	0022 (見たい)	: 0012	
	0004	0023 (覚えたい)	0013	
	9000	0024 (変えたい)	0014	
	9000	0205 (END)		
	•		•	•
	0001	0204 (戻る)	0001	
	0005	0002 (出発地)	0001	
	•	·	•	•
	2000	0007 (現在の道)	0001	
	8000	0202 (>>)	0022	
	•	•	•	•
0012	0026	0205 (END)		
	•	•	•	•

<u>図</u> 18

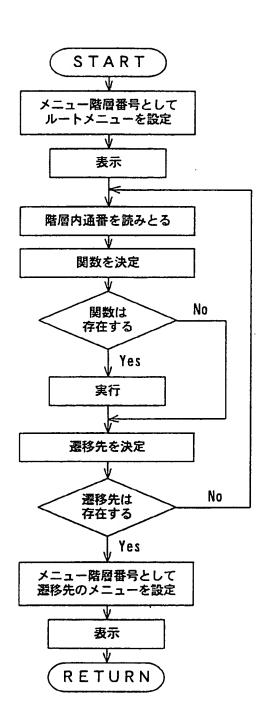
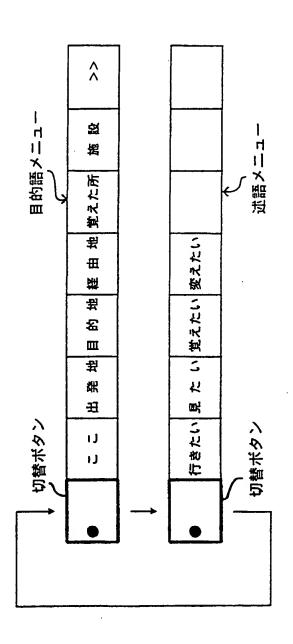
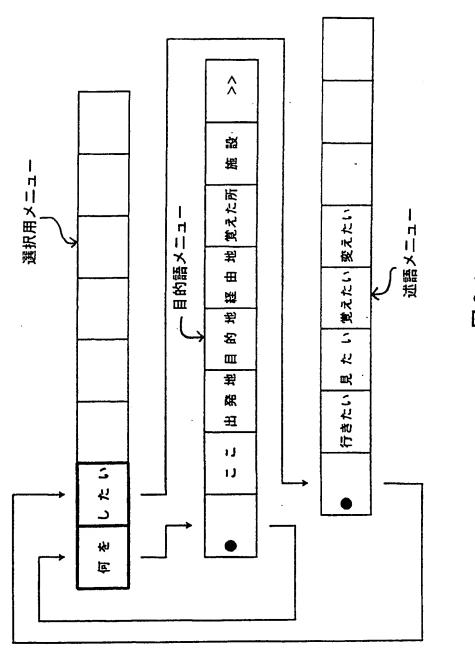


図19



逐 2 0



呼び出される 関数番号																										
選移先 メニュー階層都号	2001 1011 1012	1013	1015 1016	1002	1001	1001	1001	1001		:	1001	2011	2012	2013	2014	;		1002	2001	2001	2001	2001	2001	2001	2022	:
見出し番号	0201 (●) 0001 (ごこ) 0002 (出発地)						0022 (光にい) (地文ナン)			::			0022 (見だい)			0205 (END)				0002 (近紀)(1)(1)					0202 (>>)	<b>:</b>
階層內通番	0001	0004	9000	8000	0001	2000	0000	5000	9000	:	0001	2000	0003	0004	5000	9000	:	1000	2000	0003	0000	2000	9000	0000	8000	:
メニュー階層番号	VJ-KA↓ 1001 1001 1001	1001	1001	1001	1012	1012	1012	1012	1012	:	V⊐-FB→ 2001	2001	2001	2001	2001	2001	:	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2012	2012	:

呼び出される 号 関数番号																																				
選移先 メニュー階層番号	1001	2001		:	0001	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1002	:	1001	1001	1001	1001	1001		:	0001	2011	2012	2013	2014		2001	1002	2001	7007	2001	2001	2001	2022	:	
見出し番号		0302 (したい)		:	0201 (●)	_	0002 (出発地)	0000 (目的地)	0004 (発田地)	0005 (覚えた所)	_	~	•	_	0021 (行きたい)	_	_	_	S	:	_	_	_	0023 (覚えだい)	_	-	0204 (1)5-0)		0002 (日光号)					0202 (>>)	:	000
階層內通番	0001	0003	0003	:	0001	0005	0003	0004	5000	9000	6000	8000	:	0001	0000	0003	0004	0000	9000	:	0001	0002	0003	0004	9000	9000	1000	7000	0003	***************************************	5000	9000	0007	8000	•	5
メニュー階層番号	- kc↓	711150→ 0001	+ B X -	:	1001	1001	1001	1001	1001	1001	1001	1001	:	1012	1012	1012	1012	1012	1012	:	2001	2001	2001	2001	2001	2001	2012	2102	2012	7107	2012	2012	2012	2012	:	

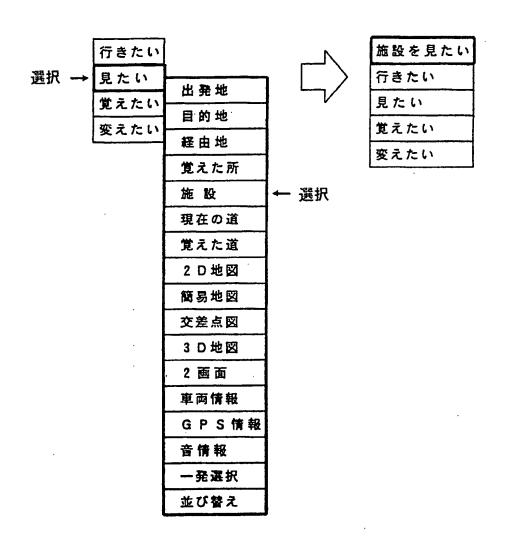
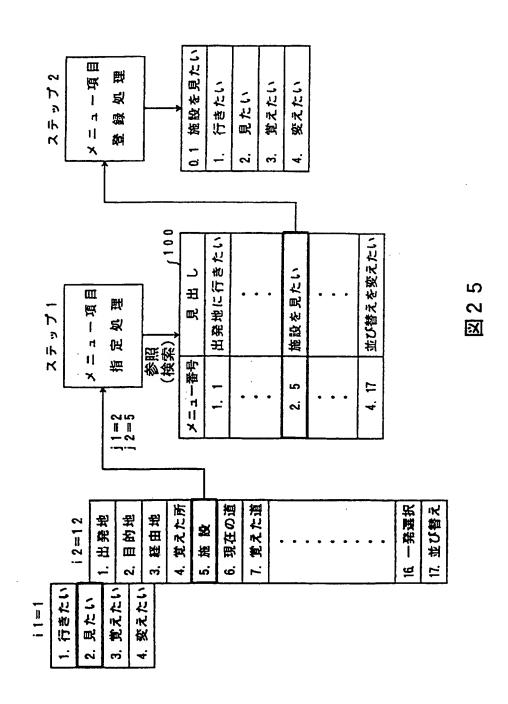
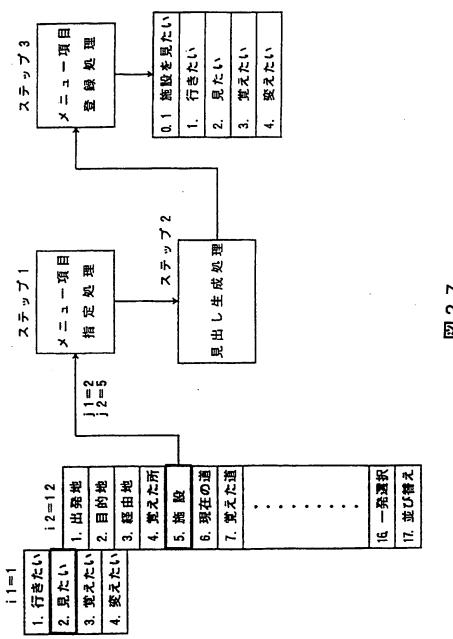


図24



メニュー階層番号	見出し語	呼び出される関数
0001	0301 (施設を見たい)	ab + xe
0001	0021 (行きたい)	aa
0001	0022(見たい)	ab
:	•	:
:	•	:
0012	0004 (覚えた所)	xd
0012	0005 (施設)	· xe
:	:	:
• :	•	
{ ·		·

図26



```
input j1, j2;
i1:=ROOT-MENU-NO;
i2:=menu(i1)(j1). next-no;
s1:=menu-item(menu(it)(j1) item-no);
s2:=menu-item(menu(i2)(j2) item-no);
if (s1="行きたい")
    then s3:=append(s2, "に", s1);
if (s1="見たい")
    then s3:=append(s2, "を", s1);

output s3;
```

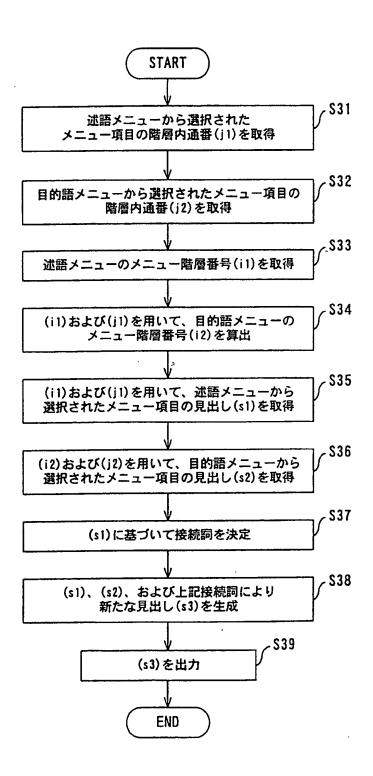
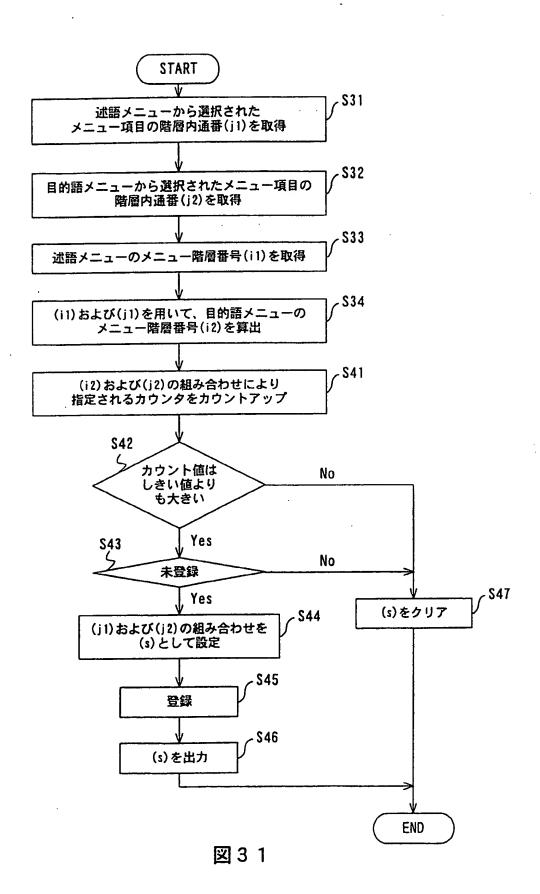
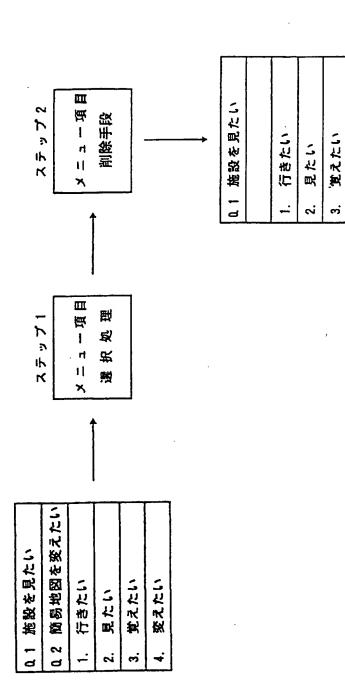


図29

```
input j1, j2;
i1:=ROOT-MENU-NO;
i2:=menu (i1) (j1). next-no;
counter (i2, j2):=counter (i2, j2) +1
if ((counter (i2, j2)>threshold) and
        (menu (i2) (j2). one-push-flag==NONE))
        then {s:= {j1, j2};
            menu (i2) (j2). one-push-flag:=EXIST}
        else s:= {};
output s;
```





変えたい

```
i:=ONE-PUSH-MENU-NO
find j
  where counter(i, j) == minimum
  for all ONE-PUSH-MENU
counter(i, j) := 0;
menu(i, j). one-push-flag:=NONE;
output j;
```

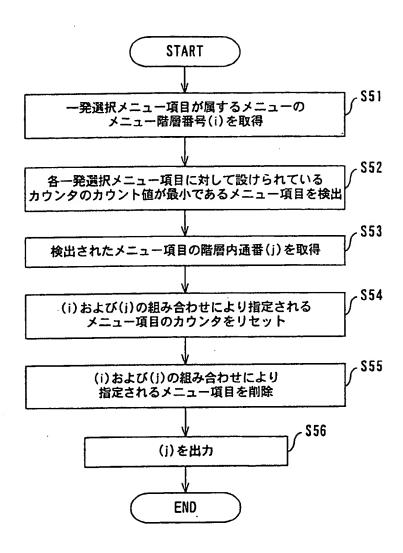
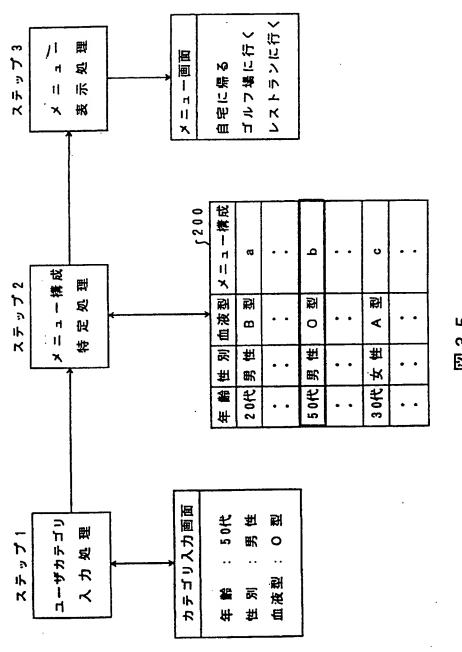


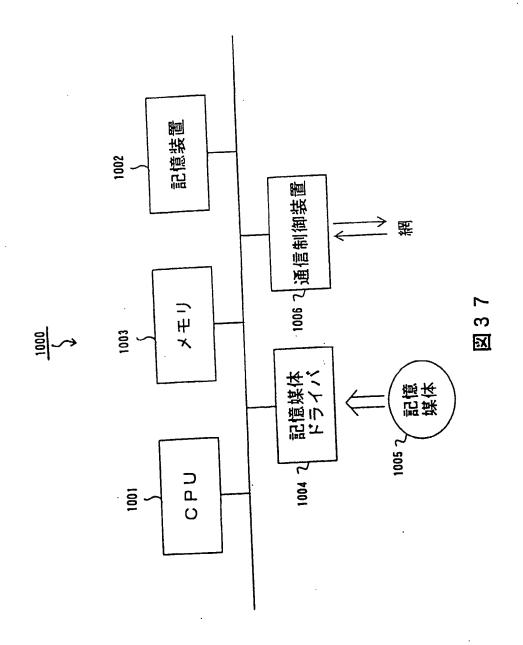
図34



 $\mathbf{c}$ ന 図

30代/女柱/A型用メニュー パーゲン情報を見る 自宅に帰る 筋製に行く 5 0代/男性/0型用メニュー レストランに行く ゴルレ猫に行く 自宅に帰る 20代/男性/日型用メニュー 3 D地図を見る 簡易地図を見る 覚えた所に行く 2 画面を見る 自宅に帰る 施設に行く

区 3 6



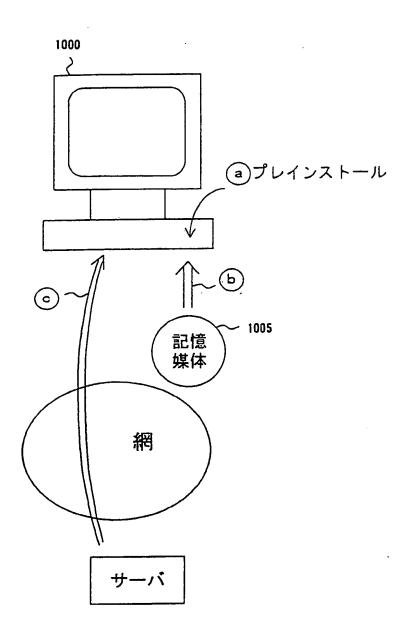


図38

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/03589

	SIFICATION OF SUBJECT MATTER Cl <sup>6</sup> G06F3/00, G01C21/00		
According to	o International Patent Classification (IPC) or to both na	ntional classification and IPC	
	S SEARCHED		
Int.	ocumentation searched (classification system followed C1 <sup>6</sup> G06F3/00, G01C21/00		-
Jitsu Kokai	· •	Toroku Jitsuyo Shinan Koho Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1994–1999 1996–1999
Electronic d	ata base consulted during the international search (nan	ne of data base and, where practicable, so	earch terms used)
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where ap	propriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP, 5-81326, A (Sony Corp.), 2 April, 1993 (02. 04. 93) (		1, 2, 5, 16 3, 4, 6-15, 17-18
X Y	JP, 3-182922, A (Fujitsu Ltd 8 August, 1991 (08. 08. 91) & US, 5485175, A	i.),	1-7, 16-17 8-15, 18
X Y	JP, 9-16801, A (K.K. Zuken), 17 January, 1997 (17. 01. 97		1-7, 16-17 8-15, 18
. х У	JP, 9-160743, A (PFU Ltd.), 20 June, 1997 (20. 06. 97)	(Family: none)	10, 11, 13, 14, 18 12, 15
A Y	JP, 9-146967, A (Yamaha Corr	).).	1-9, 16, 17
A	6 June, 1997 (06. 06. 97) & EP, 775995, A		1-11, 13-18
× Furth	er documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.	
"A" docum consider	categories of cited documents: ent defining the general state of the art which is not red to be of particular relevance	"T" later document published after the inter- date and not in conflict with the applica the principle or theory underlying the in	ition but cited to understand avention
"E" eartier "L" docume cited to	document but published on or after the international filing date ent which may throw doubts on priority claim(s) or which is establish the publication date of another citation or other	"X" document of particular relevance; the considered novel or cannot be considered when the document is taken alone	laimed invention cannot be ed to involve an inventive step
"O" docum	reason (as specified) ent referring to an oral disclosure, use, exhibition or other	"Y" document of particular relevance; the considered to involve an inventive step combined with one or more other such	when the document is
	ent published prior to the international filing date but later than rity date claimed	being obvious to a person skilled in the  "&" document member of the same patent for	art amily
	actual completion of the international search september, 1999 (24. 09. 99)	Date of mailing of the international sea 5 October, 1999 (0	rch report 5. 10. 99)
	nailing address of the ISA/ nese Patent Office	Authorized officer	
Engimila N	io.	Telephone No.	

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/03589

C (Continual	tion). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT	
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y A	JP, 10-116171, A (Kokusai Electric Co., Ltd.), 6 May, 1998 (06. 05. 98) (Family: none)	8 1-7, 9-18
Y A	JP, 6-214693, A (Victor Co. of Japan, Ltd.), 5 August, 1994 (05. 08. 94) (Family: none)	9 1-8, 10-18
A	JP, 7-271824, A (Sumitomo Electric Industries,Ltd.), 20 October, 1995 (20. 10. 95) (Family: none)	1-18
A	JP, 7-271809, A (Hitachi,Ltd.), 20 October, 1995 (20. 10. 95) (Family: none)	1-18
		·
ļ		
	·.	

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP99/03589

Box I Observations where certain claims were found unsearchable (Continuation of item 1 of first sheet)
This international search report has not been established in respect of certain claims under Article 17(2)(a) for the following reasons:
1. Claims Nos.:
because they relate to subject matter not required to be searched by this Authority, namely:
Claims Nos.:  because they relate to parts of the international application that do not comply with the prescribed requirements to such an extent that no meaningful international search can be carried out, specifically:
3. Claims Nos.:  because they are dependent claims and are not drafted in accordance with the second and third sentences of Rule 6.4(a).
Box II Observations where unity of invention is lacking (Continuation of item 2 of first sheet)
This International Searching Authority found multiple inventions in this international application, as follows:  The essential part of the invention of claim 1 resides in the idea of arranging menu items. The essential parts of the inventions of claims 10 to 14 and 18 reside in the idea of combining selection items of layered menu and generating shortcut options, as necessary. The essential part of the invention of claim 15 resides in the idea of altering a menu according to a user's attribute.  Therefore, the essential parts of the groups of inventions of claims 10 to 14 and 18, and the invention of claim 15 are mutually different, and these
groups of inventions are not so linked as to form a single general inventive concept.
As all required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers all searchable claims.
2. X As all searchable claims could be searched without effort justifying an additional fee, this Authority did not invite payment of any additional fee.
3. As only some of the required additional search fees were timely paid by the applicant, this international search report covers only those claims for which fees were paid, specifically claims Nos.:
4. No required additional search fees were timely paid by the applicant. Consequently, this international search report is restricted to the invention first mentioned in the claims; it is covered by claims Nos.:
Remark on Protest

発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC)) Int Cl G06F 3/00, G01C 21/00 調査を行った分野 調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC)) Int Cl G06F 3/00, G01C 21/00 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1926-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-1999年 日本国実用新案登録公報 1996-1999年 日本国登録実用新案公報 1994-1999年 国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語) 関連すると認められる文献 引用文献の 関連する カテゴリー\* 引用文献名
及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示 請求の範囲の番号 X Y JP,5-81326,A(ソニー株式会社),2.4月.199 1, 2, 5, 16 3 (02.04.93) [ファミリ無し] 3, 4, 6-15, 17-18 JP, 3-182922, A (富士通株式会社), 8.8月.19 X 1-7, 16-17 91 (08. 08. 91) &US, 5485175, A 8-15, 18 JP,9-16801,A(株式会社図研),17.1月.199 1-7, 16-17 X 7 (17.01.97) [ファミリ無し] 8-15, 18 x C欄の続きにも文献が列挙されている。 \* 引用文献のカテゴリー の日の後に公表された文献 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって て出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理 もの 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 論の理解のために引用するもの 以後に公表されたもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 文献 (理由を付す) 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに 「O」口頭による開示、使用、展示等に含及する文献 よって進歩性がないと考えられるもの 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 「&」同一パテントファミリー文献 国際調査を完了した日 国際調査報告の発送日 05.10.99 24.09.99 4 5 E 9072 国際調査機関の名称及びあて先 特許庁審査官(権限のある職員) 日本国特許庁(ISA/JP) 井出 和水 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号 電話番号 03-3581-1101 内線 3521

C(続き).	関連すると認められる文献	
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X Y A	JP, 9-160743, A (株式会社ピーエフユー), 20.6月. 1997 (20.06.97) [ファミリ無し]	10, 11, 13, 14, 18 12, 15 1-9, 16, 17
Y A	JP, 9-146967, A (ヤマハ株式会社), 6. 6月. 19 9.7 (06. 06. 97) &EP, 775995, A	12 1-11, 13-18
Y A	JP, 10-116171, A(国際電気株式会社), 6. 5月. 1998(06. 05. 98) [ファミリ無し]	8 1-7, 9-18
Y A	JP, 6-214693, A (日本ピクター株式会社), 5.8月.1994 (05.08.94) [ファミリ無し]	9 1-8, 10-18
A	JP, 7-271824, A (住友電気工業株式会社), 20. 1 0月. 1995 (20. 10. 95) [ファミリ無し]	1-18
A	JP, 7-271809, A (株式会社日立製作所), 20. 10月. 1995 (20. 10. 95) [ファミリ無し]	1–18
·		
·		·
·		

第1梱 請求の範囲の一部の調査ができないときの意見(第1ページの2の続き)
法第8条第3項 (PCT17条(2)(a)) の規定により、この国際調査報告は次の理由により請求の範囲の一部について作成しなかった。
1. 請求の範囲は、この国際調査機関が調査をすることを要しない対象に係るものである。 つまり、
2. □ 請求の範囲 は、有意義な国際調査をすることができる程度まで所定の要件を満たしていない国際出願の部分に係るものである。つまり、
3.  請求の範囲 は、従属請求の範囲であってPCT規則6.4(a)の第2文及び第3文の規定に 従って記載されていない。
第Ⅱ欄 発明の単一性が欠如しているときの意見 (第1ページの3の続き)
次に述べるようにこの国際出願に二以上の発明があるとこの国際調査機関は認めた。
請求項1に係る発明は、メニュー項目の並べ方にその発明の主要部があるものと認められる。請求項10~14及び18に係る発明は、必要に応じて複数階層メニューの選択項目を結合してショートカットした選択肢を生成することにその発明の主要部があるものと認められる。また、請求項15に係る発明は利用者の属性に応じてメニューを切り換えることにその発明の主要部があるものと認められる。したがって、この出願の請求項10~14及び18並びに請求項18に係る発明は、発明の構成の主要部が異なるため、請求項1~9及び16~17に係る発明と単一の一般的発明概念を形成するように関連しているものとは認められない。
1. <b>出願人が必要な追加調査手数料をすべて期間内に納付したので、この国際調査報告は、すべての調査可能な請求</b> の範囲について作成した。
2. x 追加調査手数料を要求するまでもなく、すべての調査可能な請求の範囲について調査することができたので、追加調査手数料の納付を求めなかった。
3.
4.
追加調査手数料の異議の申立てに関する注意